

(別紙様式 2)

## 学生等評価の改善状況報告書

平成 26 年 3 月 31 日

評価会議議長 殿

工学研究科長

静岡大学における学生等による評価に関する基本方針に基づき、平成 24 年度に実施された学生等による評価結果に係る改善事項について、平成 25 年度の改善状況を次のとおり報告します。

改善事項
学部生の時間割
改善計画
1 : 講義室を増室することにより、各学科における時間割作成時の自由度を増やす。 2 : カリキュラムを意識した時間割作成を行う。 実施時期 (予定を含む) : 来年度以降
改善状況
1 : 講義室の増室について事務棟改修と併せて検討し、次年度以降に増室できる見込みとなった。また、3-31 教室を改修し定員を増やした。 2 : 時間割作成に関してカリキュラムを考慮し、必修科目の再履修等に支障がないよう最大限の配慮を行ったが、不十分であることは否めない。学部改組のために複数のカリキュラムが並行していることもあり、次年度以降も改善を続ける。
達成年度 (予定を含む)
次年度以降に継続

改善事項
学部生の英語教育
改善計画

<p>1 : 各学科で必要とされる英語を吟味するとともに、学科教員の意見が反映されるような仕組みを作る。</p> <p>実施時期（予定を含む）：一部実施中 来年度以降に改善を検討</p>
改善状況
<p>1 : 改組に伴うカリキュラム改訂で新たに開講されるアカデミックイングリッシュ等で、積極的に e-learning を導入することで、専門英語に加え TOEIC 対策についても対応できるようにした。また、放課後英語教室を開講し周知した。</p>
達成年度（予定を含む）
<p>本年度一部達成（e-learning 導入）、平成 26 年度以降に開講</p>

改善事項
<p>学部生の国際的視野（異分野理解・グローバルな問題の理解）</p>
改善計画
<p>1 : 海外の研究室との交流（SSSV活動、3年目）をさらに充実させることで、日本人学生の国際化に努める。（本年度からは学部学生に単位「海外研修（2単位）」が認定される。）</p> <p>2 : 国際交流センターと協力して、日本人学生が外国人留学生と交流できるような場を提供する。</p> <p>3 : 国際経験豊かな教員たちによるプロジェクトを立ち上げ、海外派遣を促すためのイベントの企画・実行や授業改善などを試みる。</p> <p>実施時期（予定を含む）：一部実施中 来年度以降に改善を検討</p>
改善状況
<p>1 : グローバル教育の一環として、SSSV活動に工学部から16件の応募があり、多くの学部生参加し、英語能力ならびに異文化理解の向上がみられた。</p> <p>2 : アジアブリッジプログラム（ABP）が採択されたことにより、日本人学生が外国人留学生と交流できるような新たな場の提供が可能となっている。すでに全学教育科目「日本事情」（留学生科目）が今年度から単位が取得可能となっている。また、「留学生支援ボランティア」に加え、静岡県内で学んでいる留学生や日本人学生による「話っ、輪っ、和っ」なども継続して活動を行っている。</p> <p>3 : 上記ABPにより、積極的な日本人学生の海外派遣が可能となった。工学部では、</p>

国際化推進と上記プロジェクトの一環として、「各学科に1名の外国人教員の採用（合計5名）」ができるように選考委員会を設置し公募を開始した。

達成年度（予定を含む）

SSSVは一部達成 ABPによる改善は次年度以降

改善事項

学部生のリーダーシップ

改善計画

- 1： 実験・演習等でのグループ活動を通じてリーダーシップの重要性を認識させる。
- 2： キャリア形成ガイダンス等で、リーダーシップについて考える時間を設ける。
- 3： 学校ボランティア活動等への参加などを、学生に促す。

実施時期（予定を含む）：一部実施中 来年度以降に改善を検討

改善状況

- 1： 実験・演習等でのグループ活動を通じてリーダーシップの重要性を認識させることを試み、一部ではあるが効果が見られた。
- 2： キャリア形成ガイダンス等を利用し、リーダーシップについて考えさせる機会を与えた。
- 3： 学校ボランティア活動等への参加などを学生に促したが、未だ不十分であることは否めない。

達成年度（予定を含む）

本年度一部達成 次年度以降に継続

改善事項

大学院生の英語教育

改善計画

- 1： 国際学会における発表を奨励する。
- 2： 講義中に当該分野で重要な英語の話題を盛り込むように教育方法を改善する。

実施時期（予定を含む）：一部実施中 来年度以降に改善を検討

改善状況
<p>1 : 国際学会における発表を奨励するために、国際学会発表件数を奨学金返還免除選考に取り入れることなどを行った。また SSSV がインターンシップの単位として認められ、加えて海外大学交流支援事業が立ち上がっている。</p> <p>2 : 英語による開講科目以外にも、講義中に当該分野で重要な英語の話題を盛り込めるような努力を各教員が個別に行った。国際化の推進とグローバル教育を目的に、「ターゲット・アジア人材育成コース（学士課程と修士課程）」（仮名）が「アジアブリッジプログラム（ABP）」として文部科学省に認められた。修士課程では、英語対応の授業だけで卒業できる英語教育コースを行うための準備を開始した。工学研究科では、国際化推進と上記プロジェクトの一環として、「各専攻に1名の外国人教員の採用（合計5名）」ができるように選考委員会を設置し公募を開始した。また日本人教員の修士課程での英語授業の準備のため、大阪大学国際教育交流センター・副センター長有川教授による講演「大阪大学における英語による専門教育の取り組みについて」を実施した。</p>
達成年度（予定を含む）
本年度一部達成 次年度以降に継続

改善事項
大学院生の専門的職業人に必要な高い能力
改善計画
<p>1 : 講義内容を吟味する。</p> <p>2 : 研究において学生に作業を指示するだけでなく、自ら進んで考える機会を与え自発性を促す。</p>
実施時期（予定を含む）：一部実施中 来年度以降に改善を検討
改善状況
<p>1 : シラバスの整備やカリキュラムの見直しなどを行った。大学院1年生にアンケートを実施し、講義に関する意見を反映させるようデータ収集を行った。</p> <p>2 : 学内外の研究室と交流することで学生の意識改革ができる場を提供できるよう、学会発表など積極的な研究活動を行った。</p>
達成年度（予定を含む）
本年度一部達成 次年度以降も継続

改善事項
教職の学級・学校のマネジメント能力
改善計画
<p>1：教育実習の際に必要な心構えを、講義内でも繰り返し伝える。</p> <p>2：もの作り支援等、学校現場の教育活動への参加を通して、知識やスキルを一層高めるための指導を行う。</p> <p>実施時期（予定を含む）：一部実施中 来年度以降に改善を検討</p>
改善状況
<p>1：教育実習の際に必要な心構えを講義内で伝えることを継続して試みているが、効果については不明であるため、アンケート調査等を行うことでフィードバックを検討する。</p> <p>2：もの作り支援等、学校現場の教育活動への参加については、一部の実施のみであり、不十分であったため、今後は多くの学生に機会を周知することを検討する。</p>
達成年度（予定を含む）
次年度

改善事項
進路支援
改善計画
<p>1：学生からわかりやすい形で窓口の一元化を行うとともに、専門職員を適切に配置する。</p> <p>実施時期（予定を含む）：来年度以降</p>
改善状況
<p>1：各学科・専攻での就職担当のみならず、就職情報資料室が中心となったWebによる就職情報提供などを積極的に行っているが、未だ不十分であることは否めないため、昨今の就職難を考慮した体制づくりについて次年度以降の検討課題とした。</p>
達成年度（予定を含む）
次年度